

## サテライトフォトコンテスト

北はりま田園空間博物館に登録されているサテライト（展示物）のお祭り・風景・ネイチャー等、季節を感じる写真を募集します。皆様のご応募お待ちしております。

応募受付期間 平成29年8月1日～8月31日  
応募先 北はりま田園空間博物館  
(道の駅北はりまエコミュージアム)

※詳細はHP・チラシをご覧ください。北はりま田園空間博物館へお問合せ下さい。(Tel.0795-25-2370)

**賞**

★最優秀賞 1点  
2万円と北はりまの特産品1万円  
(黒田庄和牛 or 北はりまのお米)

★優秀賞 2点  
5千円と北はりまの特産品5千円  
(黒田庄和牛 or 北はりまのお米)

★入選 20点

特定非営利活動法人 北はりま田園空間博物館  
道の駅 北はりまエコミュージアム  
〒677-0022 兵庫県西脇市寺内517-1  
TEL 0795-25-2370 FAX 0795-22-2123  
ホームページ http://www.k-denku.com  
Eメール kdenku@denku.com  
※開館時間 9時～18時(11月～2月) 9時～19時(3月～10月)  
◆年末年始以外無休

お問合せはこちらへ

北はりま田園空間博物館

NPO法人北はりま田園空間博物館は西脇市・多可町の交通と道の駅北はりまエコミュージアムの収益を活動資金にしています

## 織絆

MARUFUKU SHOTEN  
先染織物卸  
株式会社丸福商店  
〒677-0052 西脇市和田町36  
Tel. 0795-22-3166

## 和味深心

KO 弥介 YASUKE

昼 1,000円～\*11時～14時  
夜 1,000円～\*17時～22時  
\*料理おさめは21時30分とさせていただきます \*予約優先・不定休

一品ごとに心弾んで満ちてゆく

おばんざいと旬を織りなす  
和味深心コース料理

- 空 kuu 3,500円(税込)
- 舞 mai 4,300円(税込)
- 弥栄 yasaka 5,300円(税込)

☎0795-22-4817  
西脇市和布町188-4  
(来住邸より南へ800m)

Facebook

## 読者文芸

西脇鹿の子句会

寒風や犬と綱引きする散歩  
北風の土産風紋大砂丘  
よべの雪朝日まばゆい伯耆富士  
吹き上げる風に山霧たゆたへり  
刈田道銘柄入りの旗なびく  
一望す丹波盆地は雪曼陀羅  
裂帛の声外までも寒稽古

内橋 哲  
青山 敏洋  
田中 町枝  
乾 東陽子  
西山 啓子  
来住 雅子  
松田 満江

## 「土・草・木」の三人展

4月1日(土)～13日(木)

陶器の長濱晋介さん  
草木染の小西康博さん  
流木アートの日吉伸也さんの三人展。見応えありますよ。(め)

## 『アートの世界』藤原三枝子作品展

5月17日(水)～31日(木)

今回の3回目になる、押し花絵画(写真)のほか、フランス発「コロリアージュ」の作品も登場。コロリアージュは水彩絵の具で丁寧に塗り上げられた大人の塗り絵です。どうぞお楽しみに!(かぶたつ)

## 第7回こどもの日コンサート Nature Ensemble

5月5日(金・祝)

来住邸でのコンサートが1年ぶりに帰ってきます!

50年前に21歳という若さで逝去された故人の作品が「兄弟の手」によって展示されます。(P)

## 募集

●あなたも来住邸ギャラリーに作品を展示しませんか?  
●西脇の歴史・文化・旅をテーマにした「たった弁の話」コーナーへのご寄稿も歓迎です! お気軽にお問い合わせください。  
(西脇TMO推進室 ☎0795・23・9119)

## 第十四話 たった弁の話

西脇の古い歴史などまったく知らない、私。昭和三十年に伯父の転勤で西脇に移り住んで、早六十年を迎えます。ふり返りますと、昭和三十年頃の西脇はとても活気があり、毎日がお祭りかと思うほどのにぎわいでした。

その後、四十年に結婚し、縁あって上本町の実相寺へ。最初はまったく何もわからないまま、一からの修行といえますが、寺のしきたりや生活など、何もかも驚くことばかり。まず朝が早いこと。お参りの人が毎日絶えないこと。朝の掃除、佛さんの供物の用意など、一日が目まぐるしく過ぎること。お寺の印や花瓶の大きさにもこれまでと違ってびっくりでした。

当山は、昭和十三年に始まるのを機に、南本町より現在地へ移転、その際、高松の長明寺より「実相寺」の名をいただき、坂本の西林寺からはシウセン堂を移築し庫裏としたそうです。その庫裏はかなり古く、数百年は超しているとか。天井が高く、冬はとても寒いです。

目の前の童子山には、住職の母校でもある西脇高等学校がありました。昭和十五年の開校から昭和四十九年に野村町へ移転するまで、多くの若者が学び青春を謳歌した場所です(うち工業課程は昭和三十八年に新設の県立西脇工業高等学校へ移籍、定時制課程は昭和四十三年に県立西脇北高等学校として分離独立)。その後、西高跡地は二存じの通り、市民センターとして整備されて人々の憩いの地となり、西脇を代表する織物祭も開かれます。間近にあがる花火の音の大きいこと! トーン! と、おなかに響くほどです。

背後の山は摩尼山と云い、ここからの眺めはまた格別です。西脇の全体がまるで絵のように、清流と緑に囲まれていて素晴らしいです。山内には四国八十八ヶ所がまつられており、札所巡りをする人や、そこから西林寺へ抜ける登山道歩く人が内外から訪れます。その人達をお茶やお菓子で接待しながら話し込んだり、よその土地のニュースを聞かせてもらったりもします。西高が目の前にあった頃は、生徒さんたちが足腰を鍛えるために寺の石段をかける跳びで上がるなどとして、その子たちとも楽しく言葉を交わしました。

境内はお墓に囲まれています、デートのカップルも見かけします。南向きの山の斜面にあるので陽光が降り注いで明るく、静かな雰囲気でお二人を邪魔する人もいません。

戦時下の疎開中、当山に身を寄せていたという方も年に一人か二人、訪ねてきて昔ばなしをして帰られます。当時、疎開の方数十人を預かっていたよう、食糧事情が悪く、ジャガイモや芋のしっぽまで分け合って食べたとか。今になってはともとても懐かし、また楽しかったと話されていました。

こころがほっと安らぐ寺として、これからもみなさんに親しんでいただけますと幸いです。

実相寺に身を寄せていた疎開の人々 (昭和20年撮影)

## 来住邸 ギャラリー

旧来住家住宅で行われる作品展を紹介いたします。

来住邸お知らせ 検索

## Salon-de-la-Roseザラント・ローズのアーティフィシャルフラワー作品展

4月15日(土)～30日(日)

日本フラワーデザイナー講師の石井麗馨さん・達可禎子さんと仲間たちの作品約50点がテーマ別に展示され、アーティフィシャルフラワーの世界が表現されます。期間中の日曜には体験レッスンも(各先着20人)(め)

## 第25回 酒井義己水彩画展

6月2日(金)～15日(木)

← 昨年の展示作品

来住邸の絵はがきでおなじみの酒井さんによる作品展。今年もどこか懐かしい風景画を中心に30数点展示されます。(P)

## 新春子ども書き初め大会 1月7日(土) 表彰式 1月21日(土)

今年約50人の子どもたちが筆試し。個性豊かな力作揃いでした。

●最優秀賞…松原朋子さん  
●優秀賞…宮田奈歩さん 仲田悠力さん

## 西脇北高校より お花のプレゼント 2月8日(木)

北高生が種から育てた愛らしい花を今年もいただきました。たくさんの方にご覧いただきたいです。

## NHKニュースKOBEB発～北播キャラバン～ 播州織工房館でTV生中継!

3月16日(木) 18:30～

おなじみのTV番組「ニュースKOBEB発」がスタジオを飛び出してわがまち西脇市へ。播州織工房館から西脇の魅力(播州織や西脇ローストップ)をたっぷり約20分、生放送で発信されました。西脇TMOも万全の協力体制で準備に奔走。無事大成功に終わって安堵したのと同時に元気をいただきました。

## 黒田庄保育園 よい子のお餅つき会 1月13日(金)

園児たちが昔ながらのお餅つきを体験。「楽しいな、おいしいな。」後日、すてきなお礼状をいただき、ありがとうございます。

## 西脇高校生活情報科 梅吉亨でシェフに!

2月3日(金)・7日(火)

味とアイデアの良さが今年も大評判。たくさんのお客様が来られていました。

## 兵庫県認定 まちの寺子屋 園児へ思い出アルバム

2月27日(月)・28日(火)・3月2日(木)

桜丘、楠丘、西脇幼稚園へ、岸室長が自作のアルバム「来住邸の思い出」を進呈。「西脇幼稚園は95年の歴史を閉じることになり寂しい思いがしますが、4月から1年生になる園児たちの成長を見守っています」との言葉も贈られました。

## Photo File

2017年1月～3月

一部ではありますが、西脇TMOの活動を記録写真でご紹介します。

西脇の古い歴史などまったく知らない、私。昭和三十年に伯父の転勤で西脇に移り住んで、早六十年を迎えます。ふり返りますと、昭和三十年頃の西脇はとても活気があり、毎日がお祭りかと思うほどのにぎわいでした。

その後、四十年に結婚し、縁あって上本町の実相寺へ。最初はまったく何もわからないまま、一からの修行といえますが、寺のしきたりや生活など、何もかも驚くことばかり。まず朝が早いこと。お参りの人が毎日絶えないこと。朝の掃除、佛さんの供物の用意など、一日が目まぐるしく過ぎること。お寺の印や花瓶の大きさにもこれまでと違ってびっくりでした。

当山は、昭和十三年に始まるのを機に、南本町より現在地へ移転、その際、高松の長明寺より「実相寺」の名をいただき、坂本の西林寺からはシウセン堂を移築し庫裏としたそうです。その庫裏はかなり古く、数百年は超しているとか。天井が高く、冬はとても寒いです。

目の前の童子山には、住職の母校でもある西脇高等学校がありました。昭和十五年の開校から昭和四十九年に野村町へ移転するまで、多くの若者が学び青春を謳歌した場所です(うち工業課程は昭和三十八年に新設の県立西脇工業高等学校へ移籍、定時制課程は昭和四十三年に県立西脇北高等学校として分離独立)。その後、西高跡地は二存じの通り、市民センターとして整備されて人々の憩いの地となり、西脇を代表する織物祭も開かれます。間近にあがる花火の音の大きいこと! トーン! と、おなかに響くほどです。

背後の山は摩尼山と云い、ここからの眺めはまた格別です。西脇の全体がまるで絵のように、清流と緑に囲まれていて素晴らしいです。山内には四国八十八ヶ所がまつられており、札所巡りをする人や、そこから西林寺へ抜ける登山道歩く人が内外から訪れます。その人達をお茶やお菓子で接待しながら話し込んだり、よその土地のニュースを聞かせてもらったりもします。西高が目の前にあった頃は、生徒さんたちが足腰を鍛えるために寺の石段をかける跳びで上がるなどとして、その子たちとも楽しく言葉を交わしました。

境内はお墓に囲まれています、デートのカップルも見かけします。南向きの山の斜面にあるので陽光が降り注いで明るく、静かな雰囲気でお二人を邪魔する人もいません。

戦時下の疎開中、当山に身を寄せていたという方も年に一人か二人、訪ねてきて昔ばなしをして帰られます。当時、疎開の方数十人を預かっていたよう、食糧事情が悪く、ジャガイモや芋のしっぽまで分け合って食べたとか。今になってはともとても懐かし、また楽しかったと話されていました。

こころがほっと安らぐ寺として、これからもみなさんに親しんでいただけますと幸いです。